

◆第四次セミナー報告書「平成一七年度障害学生修学支援セミナー報告書」

平成一八年二月二七日に開催された「平成一七年度障害学生修学支援セミナー(全国)」(詳細「大学と学生」平成一八年四月号六一頁参照)の報告書を作成した。報告書には講演の内容や配付された資料を掲載した。障害学生の修学支援の参考に文末のURLにて、全ページを掲載している(PDF:132KB)。講演テーマ:「高等教育機関における聴覚障害者のサポートシステムを考える」「発達障害のある学生の現状とそ

の支援」

分科会:聴覚障害・発達障害・支援体制

URL: http://www.jasso.go.jp/fokubetsu_shien/seminar/

houkoku.html (学生生活部特別支援課)

◆ノートテイカー養成研修会

主 催:日本学生支援機構、宮城教育大学

協力校:東北福祉大学、尚絨学院大学、仙台大学、仙台白

百合女子大学、東北文化学園大学、筑波技術大学

協力団体:宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター

開催日:会場・参加者数:

・平成一八年六月一〇日(土)東北福祉大学 二八八

・平成一八年六月二四日(土)仙台市戦災復興記念館 一四人

日本学生支援機構では宮城教育大学と共同で、大学等に修学する聴覚障害学生の授業保障のため、宮城県内の大学生等を対象に、ノートテイク技術の習得を目的とした研修会を実施した。今回の研修会は、宮城教育大学のほか六つの大学が連携して実施するもので、大学の枠組みを超えてこのような研修会を実施するのは、東北地区では初めての試みである。

研修会は「聴覚障害と情報保障について」「情報保障の手段の紹介 ノートテイクの必要性、情報保障とは?」の二つの講義と疑似体験「聴覚障害学生の情報バリアをシミュレーション体験」、「ノートテイク技術の習得(要約技術の習得)」の実技、「ノートテイカーとしてのマナー」の講義ののち、質疑応答が行われた。

なお、このノートテイカー養成研修会は一〇月中旬〜一月中旬の土曜日にも二回実施する予定である。

「ノートテイカー養成研修会報告」は次のURLにて公開中。

URL: http://www.jasso.go.jp/s_tohoku/houkoku/06_noteiku.html

(東北支部)

◆平成一八年度九州地区進学説明会

主 催:朝日新聞社

開催日:会場:

・平成一八年六月八日(木)福岡会場(西日本新聞会館)

・平成一八年六月三日(火)久留米会場(ハイネスホテル久留

米)

・平成一八年六月一四日(水)北九州会場(ステーションホテル

小倉)

来場者数:三会場延べ二四〇〇人

相談者数:四三名

主な相談内容は、申込の条件(出願資格・学力・家計基準)、予約採用の申込方法と出願時期、人的保証・機関保証制度、返還(返還開始時期・返還総額と返還期間・繰上返還・報奨金制度・免除制度)だった。(九州支部)

◆東京・関東甲信越地区学生指導研修会

主 催:独立行政法人日本学生支援機構

協 力:文部科学省

東京地区国立公立大学学生指導協議会

関東甲信越地区大学学生指導協議会

国立大学法人東京芸術大学

開催日:平成一八年六月二八日(水) 六月三〇日(金)

開催会場:国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

参加人員:一〇一名

一日目は文部科学省高等教育局学生支援課厚生係長坂本秀敬氏による講演①「学生支援に関する諸問題」、日本大学国際関係学部・同大学院国際関係研究科教授大泉光一氏による講演②「学生と組織を守る大学の危機管理対策」が行われた。二日目は東海大学学生生活支援室室長曾田成則氏による講演③「これからの学生支援について」と班別討議が行われた。三日目は班別討議のまとめの後、全体討議・各班発表が行われた。

班別討議は、必須テーマである「大学等の危機管理について」と個別テーマについて行われた。

班別討議の個別テーマは次のとおり。

第一a班:教務関係の諸問題「ゆとり教育」の学生を迎えるための取組、第一b班:教務関係の諸問題「成績の処理について」、第二班:入試関係の諸問題「入試広報と実施体制について」、第三班:学生相談の諸問題「精神不安初期段階における大学側の対応」、第四班:就職支援の諸問題「就職観等を身につけさせるためのシステム作りについて(キャリア教育)」、第五班:福利・厚生の諸問題「学生団体への指導について」、第六班:留学生関係の諸問題「留学生における在籍管理について、留学生のメンタルヘルス」。